



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.49
2014年 8月号

公益財団法人
School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

レモングラス増産への取り組み

カンボジアでは8月上～中旬に小乾季という雨季の間に雨があまり降らない時期があります。小乾季の間は日中の気温が35度以上になるので作業がとても大変でしたが、最近になってまた雨が降り出し、過ごしやすくなってきました。

今月はレモングラスを増産するための取り組みについて、野菜ハウスの作製についてと最近、農場に地元の農家さんが多数来場されていることについてご報告したいと思います。

① レモングラス増産への取り組み

レモングラス増産の為に、今は除草作業と作付作業を中心に作業を行っています。除草は手作業で行っています。先ほど書いたように、最高気温は35度を越えるので非常に大変な作業です。1時間ごとに休憩する、本当に暑い時間帯は室内作業にするなど体調面に気をつけながら作業を行っています。

作付作業は今植えているレモングラスを引き抜き、分解して作成した苗を植えます。レモングラスは始めに肥料が多いと茎の数を増やして生長してくれるのですが、前年は広範囲に作付を行った為肥料が足りず、茎の数を増やすことが出来ませんでした。その為、今年度は植える前に鶏糞を散布することで茎の数を増やし、収量が増えるようにしようと考えています。

苗作りは主に午後行います。一番暑い13時から15時に室内で行える分解作業を行いたいからです。引き抜いたレモングラスは上部を切断し、根は少し残るようにして分解します。作成した苗はヒモを張って真っ直ぐになるように植えます。前年までは75cm間隔で植えていましたが、今年度は50cm間隔にし、より多くの苗を植えることでより多くのレモングラスが収穫できるようにしています。

除草作業も作付作業も人がいるからこそ出来る作業です。現地スタッフに感謝し、現地スタッフと一緒に作業を進めていきます。



レモングラス除草の様子。暑い時間帯も皆頑張ってやってくれます。



レモングラス定植の様子。実は植えるより苗の準備に時間がかかります。

② 野菜ハウス作製について

野菜を狭い面積で効率的に栽培するため、ハウスの作製を行いました。ハウスは前年にレモングラス乾燥用に作成したので、これで2棟目になります。今回は野菜栽培のためなので雨が大量に入らないように天井と下の部分だけビニールを張り、周りは遮光シートで覆うことで気温を下げ、野菜が育ちやすいようにしています。まずは唐辛子、ナス、オクラ、ミニトマトの栽培を行い、上手くいけばプノンペンの飲食店などで使っていただくと考えています。

③ 来客増加について

8月になって地元の農家さんが多数来場するようになりました。彼らの目的は農場の雑草です。雑草は牛の餌として必要で、今年は雨が少なく、降るときには一気に降るので、雑草があまり生えず、生えても豪雨で水没して枯れているようです。農場は高台にあるので豪雨の影響が少なく、雑草が多く生えています。

雑草は牛糞と交換するという条件にしています。農家さんも無料でとりに来るよりは牛糞を持ってきて交換するほうが気兼ねなく来れるようで、頻繁に牛糞を持って雑草を取りに来ている方もいます。我々としては雑草を刈ってくれてしかも牛糞をいただけるのでありがたいことこの上ないです。

今まではこれほどまで来客がなかったのですが、前よりはSAJ Farmが周囲の方に受け入れられてきたのかなという気がします。また、周りの人によく見られているのだなあと思います。今後はただ雑草がとれるだけの場所ではなく、田畑をより良い状態にし、周りの方にどうやったらこれだけ良い田畑にできるのかと質問されるような栽培レベルの高い農場にしていきたいです。また、周りの人が集まり、情報交換のできる農場にしていければと思っています。地元の人に必要とされる農場になれるよう、これからも頑張りたいと思います。



野菜ハウス。今はナス・唐辛子・オクラの栽培をしています。今後ミニトマトも栽培します。



連日農家さんが雑草を取りに来ています。



農家さんが持ってきてくださった牛糞。1t以上はあると思います。

編集後記

野菜ハウス作製は私が始めから終わりまで責任を持って行う予定だったのですが、分かっているつもりだったが分かっていなかったということが多発し、結局は上井農場長とスタッフの力を借りることで作製することができました。まだまだ出来ないことばかりで、カンボジアで農業研修を行うはずが、勉強してばかりです。まだまだ未熟だなと感じつつ、まずは未熟な人間でも努力すれば出来るようになるんだということを現地スタッフに理解してもらえよう、日々努力したいと思います。

早藤